

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2391600158		
法人名	杉友商事株式会社		
事業所名	グループホーム あいか 3階ユニット		
所在地	愛知県名古屋市中白区御前場1番地		
自己評価作成日	平成29年12月 3日	評価結果市町村受理日	平成30年 3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=2391600158-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=2391600158-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成29年12月20日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

事業所のある地域は、昭和40年代後半に開発が進み自治活動の活発な地域です。その恵まれた立地を活かし、さまざまな地域交流の機会があります。今年の活動では、毎年恒例の公園での夏祭り、秋は、小学校での秋祭り、又、事業所のすぐ近くの幼稚園での運動会への観戦など、ご利用者だけではなく、職員も含め、活発に地域交流を行っています。事業所内では、春夏秋冬の昔ながらの日本の伝統行事を大切にしています。又、季節を感じて頂くため、日々、外出支援に力をいれています。ご利用者のおひとりおひとりの個性と尊厳を大切に、活き活きと、安心・安全な暮らしを支援しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

地域に受け入れられたホームであり、周辺住民の中にはホームの理解者や協力者も多い。ホームからも見える位置にある幼稚園の園児が遊びに来ることもあり、庭へは散歩時に自由に出入りできる関係を築いている。地域からの様々なボランティアを受け入れており、利用者とも馴染みの関係となっている。ホームの利用者への自立度維持への支援は惜しみない。生活の中で利用者の担う役割は多く、自ら家事をこなしていく利用者も少なくない。裁縫の得意な利用者は、自分で作ったエプロンをまとめて包丁を握り、編み物を趣味とする利用者は自分の編んだベストを着ている。「飛行機に乗りたい」と聞けば空港へ飛行機見学に出かけるなど可能な限りの支援が提供され、理念通り、そのひとらしく生きがいのある日々が支援されている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念に基づいた目標を毎月設定し、実践に繋げている。	ホーム理念を玄関に掲示して周知を図り、毎月の職員ミーティングで話し合って月間目標に展開している。職員は理念の意味合いを理解し、日常のケアで体現している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事に参加したり、散歩・買い物支援時に会う人と、積極的に挨拶を交わし、交流をしている。	地域に根付いたホームであり、交流事例は多い。幼稚園児がホームを訪れ、庭へは自由に入れる関係にある。町内会主催のふれあい喫茶等への参加、ホーム行事への地域からの参加と双方向の交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談窓口として、地域に発信する為のポスターを作成し、施設外壁に掲示し、随時、受け付けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	あいか通信を配布し、写真などで施設での活動報告を行い、意見を頂いている。	利用者、家族、地域代表、包括職員が参加して年6回開催している。ホームの取り組みを紹介し、地域や行政の情報を得る場となっている。議題は多岐に渡り、ホームの運営に役立っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて、担当者と連絡を取り、相談を行っている。	包括職員は毎回運営推進会議に参加してホームの現状を理解しており、いつでも相談できる関係を築いている。包括が主催する天白まつりへの作品展示の依頼を受け、ユニットで作品を作り出品することにした。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング時に身体拘束についての研修を行っている。玄関は、オートロックになってはいるが、外出の要望があれば、ほぼ毎日対応する事ができている。	職員ミーティングで身体拘束について勉強会を開き、日常のケアの中でスピーチロックも含め注意喚起を図っている。利用者は1階から4階まで建物内を自由に行き来し、外出の希望にも可能なかぎり速やかに対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング時に虐待についての研修を行っている。更衣やトイレ介助中は、必ず扉を閉めるなど、行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今現在、後見人を利用しているご利用者がみえる為、職員はそのつど考え、学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書・重要事項説明書をもとに説明をし、質問等ないか、確認をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見・要望はその都度対応している。家族様には、面会時等、積極的に声をかけ、発信しやすい関係になれるように努めている。	家族の来訪時や随時の電話で家族意見を聞き取っている。法人で家族アンケートを実施し、集まった意見や提案には即時対応するよう取り組んでいる。ホーム通信は個人別に作成し、日常の様子を細かく報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全職員に、アンケートと業務改善案書を配布し、回収、改善に努めている。	職員ミーティングはカンファレンスに偏ることなく月間目標や業務について話し合う時間を十分に確保している。管理者は現場からの登用であり、職員とのコミュニケーションは取りやすい環境にある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価表の記入と、上司からの評価表・面談を行い、個別での目標設定を行い、やりがいに繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員ひとりひとりの力量に合わせた研修に参加する事ができるように研修案内を掲示し、参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年2回行われる、同事業所内の交流会に参加している。外部研修時、各自で他事業所の同業者との交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前までに、ご本人・ご家族様から、できるだけの情報収集をし、全職員で共有、ケアプランを作成、実施している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話をしっかりと傾聴し、理解し、その上で専門職としての知識を発揮して、相談をしやすいように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の視点に立ち、本人にとって適切なサービスを提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作り・掃除・洗濯などごく普通の日常生活を、職員と一緒に、行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と支援の方法など、相談をしながら行い、必要に応じて協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの店に買い物へ出掛けたり、食事に行く事ができるように支援を行っている。	地域からの入居者が多いこともあり、散歩や買い物で馴染みの店員や古い友人と交流する機会がある。編み物や裁縫、調理など、それまでの趣味や習慣も継続できるよう積極的に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性と尊厳を大切にし、必要に応じて職員が仲介に入り、孤立しないように支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、他施設に面会へ行くなど、行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者ひとりひとりの視点に立ち、その人の思い・要望を、常に考えながら把握できるように努めている。	日常のケアの中で利用者の希望を聞き取り、介護記録に記入して情報共有している。意思の発露の苦手な利用者の家族からの情報で過去の職歴を知り、陶器の博物館へ出かけて喜びの表情を見ることができた。	利用者の発した言葉を丁寧に扱い、介護計画に直接つなげていく取り組みを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からの言葉や、物・写真などを参考にし、把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌・バイタル帳・申し送りノートを記入し、活用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	そのひとらしい生活について、常に話し合いを行っている。	利用者の状態変化時と、概ね3ヶ月毎に計画の見直しを行っている。利用者や家族の希望を反映しながら、カンファレンスでの職員意見を尊重した計画立案を行っている。	計画の目標設定が具体性に欠けており、評価がしにくいものとなっている。目標に具体性を持たせ、明確な評価ができる計画立案を望みたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌に、日々の気づきや、ご本人の言葉をそのまま記録し、職員間で情報を共有し介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できるかぎり、ご本人の要望に合わせた支援ができるように、その都度、柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの店を作り、あいさつや世間話などを通じて社会との関わりを感じ、安心できるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望されるかかりつけ医を選択して頂いている。	ホーム協力医の往診と週1回の訪問看護師による健康管理があり、両者とも24時間連絡がとれる体制にある。馴染みのかかりつけ医を希望する利用者は、継続して往診を受けている。必要に応じて歯科の往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護来設時、敏速に対応できるように、事前に連絡事項を記入、又、口頭でも随時、相談ができる関係を築いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、必要な情報を提供している。入院中も電話や面会時、経過について確認をし、早期退院ができるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人・ご家族と、順次話し合い、医療との連携で出来る事、出来ない事を説明・理解して頂いたうえ、取り組む事ができるようにしている。	入居時にホームでできることできないことを明確にし、希望があれば看取りまで対応することを説明している。必要な時期に家族と繰り返し話し合いを持ち、家族や医師、看護師の理解と協力のもと最善な終末期が過ごせるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についての、研修をおこなっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行っている。	年2回様々な想定をして避難訓練を行っている。通報、消火、避難誘導の訓練を行い、AEDの使い方の研修も行った。非常食飲料は3日分を屋外倉庫に備蓄し、利用者は実際に摂取できるか試食している。	火災だけでなく地震等広域災害の想定も必要かと思われる。地域住民との協力体制構築など新たな視点を持ち、具体的な取り組みを望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症を知り、ひとりひとりの個性・尊厳を大切に、言葉使いひとつにでも配慮した対応ができるように努めている。	言葉遣いを丁寧に、手を出しすぎず利用者本位のケアに努めている。特に入浴時や排泄の介助時は利用者の羞恥心に配慮している。掲示物やブログに載せる写真は、必ず許諾を得よう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉で表現出来ない方でも、二者選択で選んで頂くなど、自己決定をする事が出来る場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・入床・食事・入浴など、ひとりひとりの生活スタイルに合わせた時間での声掛けをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性の髭そりや、女性の髪形など、ごく当たり前のよう継続できるように支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りが困難なご利用者でも、味見など、その人が出来る事を探り、一緒に行い、楽しんでいる。	包丁を使った調理から片付けまで一連の流れの中でそれぞれが可能な工程を行っている。配食材を活用し調理は臨機応変にメニュー変更している。週1回はフリーメニューの日とし、利用者の希望のメニューを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量を記録している。ひとりひとりの嗜好を大切に食事・水分の提供に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その人にあった、口腔ケアの道具を用意し、毎食後、必要な支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録より、ひとりひとりの排泄間隔を把握し、必要に応じて声掛け、自立できるように努めている。	一人ひとりの自立度に合わせ、見守り、様子を見ての声かけ、時間での誘導でトイレで排泄できるよう支援している。ミーティングで支援方法を話し合い、自立度が維持できるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録より、ひとりひとりの排便状態を把握し、薬だけではなく、乳製品などを摂取し、予防をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回、入浴して頂けるように行っているが、希望があれば、その都度対応をしている。絶好の個別ケアの時間として談話などを楽しんでいる。	週3回の入浴を基本とし、希望があれば可能な限り対応している。入浴時間帯は固定せず、それぞれの希望に応じている。お気に入りのシャンプーやボディシャンプーを使う利用者もあり、楽しい時間となるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとりひとりの体力や、健康状態に応じて休息の案内をしている。寂しい思いをする方には、居室に限らず、リビングのソファでの休養もとり入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誰が、どのような薬を服薬しているのか、全職員が、すぐに確認をする事が出来る場所に、薬状書を保管している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとりひとりの生活歴や、日常の様子から、出来る事・得意な事を探り、楽しみながら継続出来るように支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ほぼ毎日、買い物・散歩などの外出支援を行っている。誕生日には、その方の行きたい所へ行けるように支援をしている。	日常的に散歩や買い物に出かけ、季節に合わせた企画外出は家族も参加して頻回に行われている。誕生日には一人ひとりの希望を聞き取り、個別外出を支援している。家族の支援で外出する利用者もいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己にて管理できる方は、持参し、買い物時に支払ができるように支援をしている。金銭管理の出来ない方には、立替金として、好きな物を購入できるように支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の持ち込みは自由だが、現在、持ち込まれている方はいない。電話の希望があれば、その都度、フロアーの電話で、職員が取りついでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	場面によって、音楽を変えている。夕食後から、就寝までの間のクールダウンに合わせて照明の明かりなどを変えている	ホームは4階建てビルの3階4階にあり、1～2階には同法人の事業所が入居している。日当たりや風通しが良く、明るく清潔なリビングとなっている。利用者の作った多くの季節の飾りが施され、利用者同士や職員と会話を楽しみながら過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーとの隣接に、ソファとテーブルを置き、居室とは違う、半個室のペースを用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやタンスなど、ご本人の使い易い配置や高さになっている。ご家族との写真などを飾っている。	馴染みある品々が持ち込まれ、個性ある居室となっている。位牌の前で毎日経を読む、好きなキャラクターのぬいぐるみを沢山ベッドに置く、居室前のベランダで花を育てると、一人ひとりのそれまでの生活が窺われる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	エレベーターに乗り、他フロアーへの行き来が、自由にできるように支援をしている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391600158		
法人名	杉友商事株式会社		
事業所名	グループホーム あいか 4階ユニット		
所在地	愛知県名古屋市中白区御前場1番地		
自己評価作成日	平成29年12月 3日	評価結果市町村受理日	平成30年 3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2391600158-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2391600158-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成29年12月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所のある地域は、昭和40年代後半に開発が進み自治活動の活発な地域です。その恵まれた立地を活かし、さまざまな地域交流の機会があります。今年の活動では、毎年恒例の公園での夏祭り、秋は、小学校での秋祭り、又、事業所のすぐ近くの幼稚園での運動会への観戦など、ご利用者だけではなく、職員も含め、活発に地域交流を行っています。事業所内では、春夏秋冬の昔ながらの日本の伝統行事を大切にしています。又、季節を感じて頂くため、日々、外出支援に力をいれています。ご利用者のおひとりおひとりの個性と尊厳を大切に、活き活きと、安心・安全な暮らしを支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念に基づいた目標を毎月設定し、実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事に参加したり、散歩・買い物支援時に会う人と、積極的に挨拶を交わし、交流をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談窓口として、地域に発信する為のポスターを作成し、施設外壁に掲示し、随時、受け付けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	あいか通信を配布し、写真などで施設での活動報告を行い、意見などを頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて、担当者と連絡を取り、相談を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング時に身体拘束についての研修を行っている。玄関は、オートロックになってはいるが、外出の要望があれば、ほぼ毎日対応する事ができている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング時に虐待についての研修を行っている。更衣やトイレ介助中は、必ず扉を閉めるなど、行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今現在、後見人を利用しているご利用者がみえる為、職員はそのつど考え、学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書・重要事項説明書をもとに説明をし、質問等ないか、確認をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見・要望はその都度対応している。家族様には、面会時等、積極的に声をかけ、発信しやすい関係になれるように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全職員に、アンケートと業務改善案書を配布し、回収、改善に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価表の記入と、上司からの評価表・面談を行い、個別での目標設定を行い、やりがいに繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員ひとりひとりの力量に合わせた研修に参加する事ができるように研修案内を掲示し、参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年2回行われる、同事業所内の交流会に参加している。外部研修時、各自で他事業所の同業者との交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前までに、ご本人・ご家族様から、できるだけの情報収集をし、全職員で共有、ケアプランを作成、実施している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話をしっかりと傾聴し、理解し、その上で専門職としての知識を発揮して、相談をしやすいように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の視点に立ち、本人にとって適切なサービスを提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作り・掃除・洗濯などごく普通の日常生活を、職員と一緒に、行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と支援の方法など、相談をしながら行い、必要に応じて協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの店に買い物へ出掛けたり、食事に行く事ができるように支援を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性と尊厳を大切にし、必要に応じて職員が仲介に入り、孤立しないように支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、他施設に面会へ行くなど、行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者ひとりひとりの視点に立ち、その人の思い・要望を、常に考えながら把握できるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からの言葉や、物・写真などを参考にし、把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌・バイタル帳・申し送りノートを記入し、活用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	そのひとらしい生活について、常に話し合いを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌に、日々の気づきや、ご本人の言葉をそのまま記録し、職員間で情報を共有し介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できるかぎり、ご本人の要望に合わせた支援ができるように、その都度、柔軟に対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの店を作り、あいさつや世間話などを通じて社会との関わりを感じ、安心できるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望されるかかりつけ医を選択して頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護来設時、敏速に対応できるように、事前に連絡事項を記入、又、口頭でも随時、相談ができる関係を築いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、必要な情報を提供している。入院中も電話や面会時、経過について確認をし、早期退院ができるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人・ご家族と、順次話し合い、医療との連携で出来る事、出来ない事を説明・理解して頂いたうえ、取り組む事ができるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についての、研修をおこなっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症を知り、ひとりひとりの個性・尊厳を大切に、言葉使いひとつにでも配慮した対応ができるように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉で表現出来ない方でも、二者選択で選んで頂くなど、自己決定をする事が出来る場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・入床・食事・入浴など、ひとりひとりの生活スタイルに合わせた時間での声掛けをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性の髭そりや、女性の髪形など、ごく当たり前のよう継続できるように支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りが困難なご利用者でも、味見など、その人が出来る事を探り、一緒に行い、楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量を記録している。ひとりひとりの嗜好を大切に食事・水分の提供に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その人にあった、口腔ケアの道具を用意し、毎食後、必要な支援をしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録より、ひとりひとりの排泄間隔を把握し、必要に応じて声掛け、自立できるように努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録より、ひとりひとりの排便状態を把握し、薬だけではなく、乳製品などを摂取し、予防をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回、入浴して頂けるように行っているが、希望があれば、その都度対応をしている。絶好の個別ケアの時間として談話などを楽しんでいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとりひとりの体力や、健康状態に応じて休息の案内をしている。寂しい思いをする方には、居室に限らず、リビングのソファでの休養もとり入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誰が、どのような薬を服薬しているのか、全職員が、すぐに確認する事が出来る場所に、薬状書を保管している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとりひとりの生活歴や、日常の様子から、出来る事・得意な事を探り、楽しみながら継続出来るように支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ほぼ毎日、買い物・散歩などの外出支援を行っている。誕生日には、その方の行きたい所へ行けるように支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己にて管理できる方は、持参し、買い物時に支払ができるように支援をしている。金銭管理の出来ない方には、立替金として、好きな物を購入できるように支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の持ち込みは自由だが、現在、持ち込まれている方はいない。電話の希望があれば、その都度、フロアーの電話で、職員が取りついでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	場面によって、音楽を変えている。夕食後から、就寝までの間のクールダウンに合わせて照明の明かりなどを変えている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーとの隣接に、ソファとテーブルを置き、居室とは違う、半個室のペースを用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやタンスなど、ご本人の使い易い配置や高さになっている。ご家族との写真などを飾っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	エレベーターに乗り、他フロアーへの行き来が、自由にできるように支援をしている。		